



殺  
シ  
合  
イ  
ノ  
獣

公演日

5月4日夜

出演者

石川由依<ヨルハ二号B型(2B)>

花江夏樹<ヨルハ九号S型(9S)>

諏訪彩花<ヨルハA型二号(A2)>

第一幕 真珠湾降下作戦

A 2

(ナレーション、以下…ナ)

全ての存在は滅びるようにデザインされている。

A 2 (ナ)

生と死を繰り返す螺旋に……

A 2 (ナ)

私は囚われ続けている。

A 2 (ナ)

これは、呪いか。

A 2 (ナ)

それとも、罰か。

A 2 (ナ)

不可解なパズルを渡した神に、

A 2 (ナ)

いつか、私は弓を引くのだろうか？

2 B (ナ)

彼女はA 2。アタッカー二号。

2 B (ナ)

ヨルハ機体、試作型。

A 2

私が初めて戦線に投入されたのは11941年、12月8日。

A 2

第十四次機械戦争 真珠湾降下作戦。

A 2

機械生命体に支配された地球を奪還する為に作られた決戦兵器。

A 2

……それが、私達「ヨルハ部隊」。

2 B (ナ)

破壊目標はオアフ島に存在する機械生命体サーバー！。

2 B (ナ)

サーバーは太平洋全域のネットワークを支配する  
基幹ユニットであり、

2 B (ナ)

その攻略は戦局に大きな影響を与える作戦。

A 2

だが、想定外の敵の猛攻によって、私達の部隊は大損害を受ける。

A 2

現地のレジスタンスと合流したが、一人、また一人……

A 2

サーバールームに到着する頃には、  
仲間の多くは討ち死にしています……

2 B (ナ)

そして、サーバールーム内でA 2はこの作戦の真実を知ってしまう。

2 B (ナ)

全ての戦闘は、司令部によって仕組まれたものだった。

2 B (ナ)

本当の目的は、より完成された自動歩兵人形を作るための  
実験データ収集。

2B (ナ)

A2達、実験部隊の体内には、自爆用の爆弾が仕込まれていた。

◎絶望するA2

私達の体の中に……爆弾が……

生命活動が止まったら……爆発する……

そんな……

そんなあああっ!!

A2

A2

A2

A2

2B (ナ)

全ての戦いは仕組まれていた。

2B (ナ)

全ての死は予定されていた。

2B (ナ)

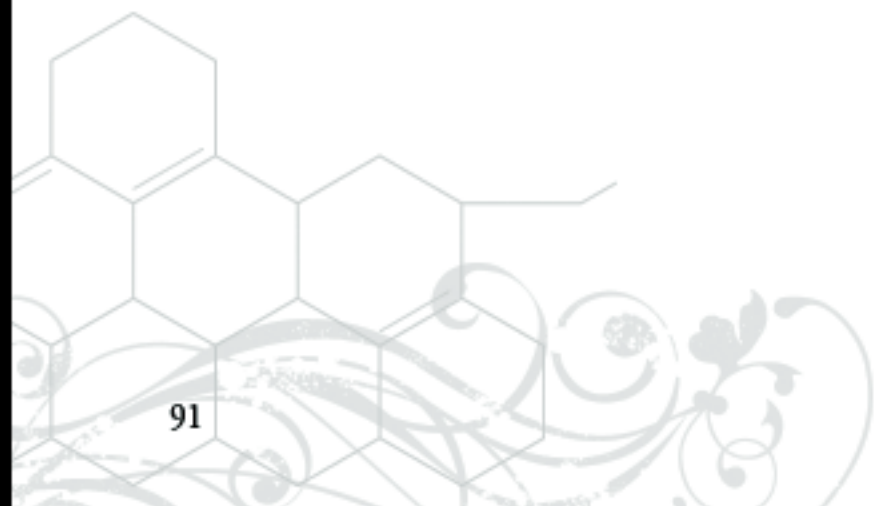
絶望するA2に、仲間が叫ぶ。

2B (ナ)

二号、ここは私が壊す。

2B (ナ)

貴方は……生きる。



A 2

---

◎A2、泣きながら必死に叫ぶ。  
だめだっ！ 四号ッ!!!

2 B (ナ)

自らを犠牲にした、最後の攻撃。

2 B (ナ)

閃光がサーバールームを包み込む。

A 2

---

四号ーッ!!

◎A2、顔を伏せる。

2 B (ナ)

……敵機械生命体サーバー破壊。

2 B (ナ)

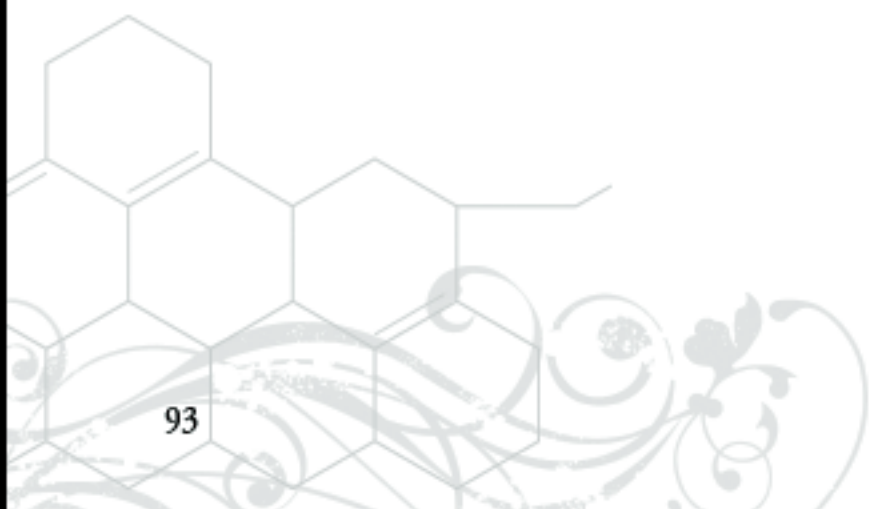
半径250 km内の敵勢力は完全に沈黙。

2 B (ナ)

太平洋全域の勢力図を大きく書き換える事になった。

2 B (ナ)

そして……



◎A2、顔をゆっくり上げながら。

……私は、生き延びてしまった。

戦うべき目標を失い、信じるべき司令部に裏切られ、  
それでもなお、この命は残ってしまった。

死んでいった仲間達……撃ち落とされたヨルハ部隊、  
レジスタンスの皆……

二十一号、十六号……四号……

私は……私はッ!!

A 2

A 2

A 2

A 2

A 2

A 2

2 B (ナ)

2 B (ナ)

2 B (ナ)

2 B (ナ)

……ヨルハ部隊所属、二号のブラックボックス反応、未だ健在。

ヨルハ計画最重要機密保持者として認定。

機密漏洩を防ぐ為……

ヨルハ実験部隊・アタッカー二号の破壊を命ずる。

以上。

9 S (ナ)

アタッカー二号。A2。

9 S (ナ)

彼女は本当は、大人しく優しい性格だった。

9 S (ナ)

誰よりも戦いが苦手で、誰よりも仲間を思いやる。

9 S (ナ)

とても兵士に向いているとは思えない思考回路だった。

A 2

……だが、初めての降下作戦で、私は大勢の仲間を失った。

A 2

司令部によって仕組まれた過酷な戦闘。

A 2

死にゆく仲間たちに祈りながら……

A 2

私は、心を失っていった。

9 S (ナ)

ヨルハ司令部から脱走したA2に帰る場所はない。

9 S (ナ)

だが、仲間に貰った命を捨てる事も出来ない。

A 2

機械生命体を倒す日々。

A 2

いつか勝利出来る時が来るなど、信じていない。

A 2

だが、仲間を殺した機械生命体を許すわけにはいかない。

A 2

私は、私が、私である為に戦い続けた。

9 S (ナ)

戦い、壊れて、自己修復を繰り返す。

9 S (ナ)

その痛みが、痛みだけが、A 2の生きている証だった。

9 S (ナ)

だが、ある日。

9 S (ナ)

A 2の前に、想像もしていなかった敵が立ちはだかる。

2 B

ヨルハ試作機。アタッカー二号、A 2だな？

◎A 2、驚きの眼差し。

A 2

オマエは……



9 S (ナ)

A2が目にしたその相手は、最新鋭のヨルハ機体。

9 S (ナ)

しかもその顔は、A2と全く同じ。

◎ 呆然とするA2

A 2

私と同じ顔……二号、モデル……

A 2

まさか、私の戦闘データを基に、  
新たなヨルハを量産しているのか……？

2 B

A2、貴方には機密情報漏洩及び、機密情報管理不全によって月面の  
人類会議より処刑命令が出ている。

A 2

処刑……命令？

2 B

私は、2E。二号E型。貴方を処刑する為にバンカーから派遣された。

2 B

大人しく機能を停止して機体制御を渡しなさい。  
さもなければ、貴方を破壊する。

A 2

フツ……フフフフツ。

◎怒りのあまり笑い始めるA2。

A 2

司令部から、派遣？

A 2

処刑？ 処刑モデルだって……？

A 2

自分たちの犯した罪を隠蔽する為に、

A 2

わざわざご丁寧に、私と同じ顔のヨルハを作って、殺しに来させた？

A 2

フツ……フフフフツ。

2 B

A2。貴方の弁明をここで詳しく聞いている時間は……

A 2

うるさいっ!!!

◎突如大声で激怒するA2。

A 2

……オマエ達が私を殺そうというのなら。

A 2

オマエ達が、真実を隠そうというのなら。

A 2

いいだろう。私も容赦はしない。

A 2

機械生命体も、バンカーも、司令部も、月面の人類会議も……全て殺す。

9 S (ナ)

その手には、機械生命体に振るう筈の剣が握られ。

9 S (ナ)

その目には、優しかった頃の光は無く。

9 S (ナ)

ただ、孤独に苦しむ、一人の復讐者が、

9 S (ナ)

静かに、「敵」を見据えていた。



2B (ナ)

司令部はヨルハ計画の機密漏洩を恐れ、A2の破壊命令を出していた。

2B (ナ)

追手を振り払い、機械生命体と戦う。

2B (ナ)

目に入るモノ全てが敵となった今、A2に逃げる場所は無かった。

A2

クソッ!! チョロチョロと逃げ回りやがって。

9S

ハハッ。そんな大雑把な攻撃、当たりませんよ。

A2

男なら正々堂々と戦えッ!!

9S

僕はスキヤナーモデルだから、  
近接攻撃はあまり得意じゃないんですね。

A2

ゴチャゴチャうるさいッ!!

9S

ほら、そうやってヨソ見していると、  
防御が疎かになりますよ。

A2

ふざけん……ウアアッ!!

2B (ナ)

9Sのハッキング攻撃がA2に直撃。

2 B (ナ)

論理防壁を突破されたA2の自我。

2 B (ナ)

そこは、前後左右全てが真っ白な壁で閉ざされた空間。

A 2

……ここは……!?

9 S

ハッキング空間です。貴方の脳内で自我データを封印しました。

9 S

えーっと、ヨルハ機体A2。試作型のアタッカー二号。

9 S

貴方には機密情報漏洩及び、機密情報管理不全によって、  
月面の人類会議より処刑命令が出ています。

A 2

……ハッ。司令部の犬共が。

9 S

乱暴なモノ言いですね。

9 S

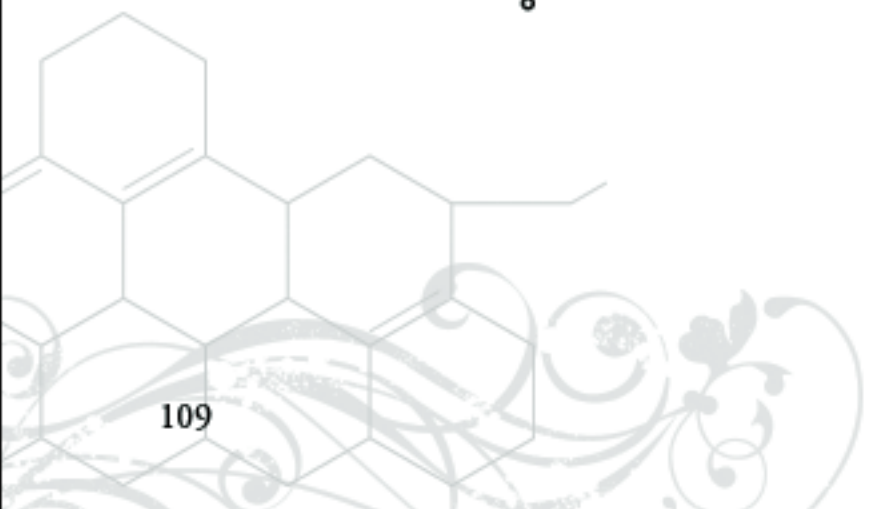
でも、いくら叫んでも、もう逃げられませんよ。

2 B (ナ)

A2の周囲に黒い霧が巻き起こる。

2 B (ナ)

それは、自我データを拘束するためのトラップだった。



9 S

その防壁は設置型ですが、内側に向けてあります。

9 S

いくら暴れても逃げ出す事は出来ません。

A 2

クソッ……

9 S

クソクソって言い過ぎじゃないですか？

A 2

お前は司令官から何を言われてきたんだ……

9 S

何って……さっき言った通り、脱走した貴方を処刑する事ですよ。

9 S

ただ、僕は乱暴なのは嫌いなので、  
このまま司令部に送りつけちゃおうかと思ってるんですが。

A 2

それだけか……

9 S

は？

A 2

その程度しか、調べる事が出来てないのか。スキャナーモデルの癖に。

◎9Sの声が冷たくなる。

9 S

……僕を愚弄する気ですか？

9 S

その防壁は、貴方を拘束する為に用意したのですが……

9 S

気が変わりました。

9 S

命令どおり、貴方の自我をそのまますり潰してしまいます。

9 S

◎9 S、手を差し出す。

乱暴な物言いを、後悔してください。

2 B (ナ)

9 SはA2に対する消去命令を発行した。

2 B (ナ)

しかし、A2の周囲を取り巻く黒い霧は、一定段階以上濃くはならない。

2 B (ナ)

それどころか、逆に、9 Sの体に異変が生じ始める。

2 B (ナ)

気づくと、手や足に黒い蛇のようなデータが何本も巻き付いていた。

9 S

これは……まさか……

9 S

カウンター攻撃型の論理防壁!?

9 S

そんなものどうやってッ!!

A 2

◎A2、ダメージから回復しながら。

簡単な話だ……



A 2

お前からもらったんだよ。

9 S

僕、から!?

2 B  
(ナ)

混乱する9Sに更にデータが巻き付き、自我の逃げ場をなくしてゆく。

A 2

ヨル八部隊九号S型モデル……

A 2

その機体に会うのは、これで四度目だ。

A 2

最初は苦戦したさ。

A 2

だけれど、何度も戦ううちに、スキャナーモデルの癖が判ってきた。

A 2

これまでの機体もそうだが、  
お前達は様々なパターンで攻撃してくるが、

A 2

最後は、お得意のハッキングで仕留めようとする。

A 2

最初は危ないところだったが、  
二回目以降は防壁でしのげるようになった。

A 2

これは、お前たち自身が、いざという時の為に保険で持っていた  
プログラムなんだろ？



9  
S

◎9S、苦しみながら。

そんなッ……クソッ、防壁の解除を……!!

◎A2、冷徹に。

無駄だよ。その防壁は、自分自身の自我データを折りたたむように作られている。

A  
2

脱出する事は、不可能だ……そういう風に作ったんだろう？

9  
S

◎9Sが苦しみながら潰れていく。

グウアアアアッ……クソッ……クソオオオオッ!!

9  
S

A2ーッ!!!

◎絶叫が収まると、A2が静かに話し始める。

A  
2

その悲鳴を聞くのも……四回目だ。

A  
2

もう、出会わずに済む事を……祈ってるよ。



9S (ナ)

僕達は「森の国」と呼ばれる場所をさまよっていた。

9S (ナ)

攻撃的で危険な機械生命体のリーダー「森の王」。

9S (ナ)

壊れかけたお城の中でようやく見つけたそれは……

9S (ナ)

まるで、小さな赤ん坊のような姿をしていた。

2B (ナ)

私達は戸惑っていた。

2B (ナ)

武器を持つことはおろか、自分では歩くことも出来ない機械生命体。

2B (ナ)

こんなモノが、森の王だなんて……

2B (ナ)

その躊躇いを見透かすように、ソレはやってきた。

A2 (ナ)

私がおの場所を訪れたのは、偶然だった。

A2 (ナ)

凶暴な機械生命体を倒していくうちに、  
奴らのリーダーがたまたまそいつだった訳だ。

A 2 (ナ)

その機械は、小さく、弱く見えた。

A 2 (ナ)

だが、私は躊躇する事なく剣を刺す。

A 2 (ナ)

機械生命体のコアの断末魔が、剣から伝わってくる。

A 2 (ナ)

これは敵だ。これは敵だ。これは……敵だ。

A 2 (ナ)

そう自分に、言い聞かせながら。

2 B (ナ)

目の前に舞い降りたアンドロイドは、私と同じ顔をしていた。

2 B (ナ)

ヨルハ機体二号型。

2 B (ナ)

彼女の目がこちらを見据える。

2 B (ナ)

まるで……何もかも諦めたような眼差しで。

9 S

2 B！ あれ……アンドロイドだよ！

9 S

しかも、あれは……ヨルハタイプじゃないか！

A 2 (ナ)

私は彼らを知っている。

A 2 (ナ)

何度か、殺していたから。

A 2 (ナ)

当然のように、私を破壊するように命令が下るだろう。

2 B (ナ)

この個体に出会った記憶はない。

2 B (ナ)

だけど、何故か……心のどこかで違和感を感じている。

9 S (ナ)

脱走したとはいえ、同胞であるはずのヨルハ機体を破壊する。

9 S (ナ)

その嫌悪感に苦しみながら、僕の心の中にある疑問が芽生える。

9 S (ナ)

本当に、目の前にいるヨルハ機体は、僕達の「敵」なんだろうか……？

A 2 (ナ)

何度も殺している筈の、ヨルハ機体、二号B型と、九号S型。

A 2 (ナ)

その時に出会った二人の表情は……どこか今までと違う気がした。

A 2 (ナ)

何が理由なのかはよくわからない。

A 2 (ナ)

ただ、どこか……昔の仲間達を見ているようだったんだ。

A 2 (ナ)

………

A 2 (ナ)

もしかしたらこれは、何かの予兆なのかもしれない。

A 2 (ナ)

それは、終わりかもしれないし、始まりかもしれない。

A 2 (ナ)

二十一号、十六号……四号。

A 2 (ナ)

もし、私が死んだら……そっちに遊びに行く。

◎A 2、しっかりと前を見据え。

A 2 (ナ)

だから、もう少しだけ……待っててくれ。

2 B (ナ)

私達ヨル八部隊は、戦う為に生み出された兵器。

9 S (ナ)

僕達ヨル八部隊は、殺す為に生み出された狂気。

A 2 (ナ)

この世界は呪いに満ちている。

A 2 (ナ)

殺し合いの連鎖が、私達を繋いでいる。



2B (ナ)

だけれど、私達は戦わなくてはいけない。

9S (ナ)

だから、僕達は殺さなくてはいけない。

A2 (ナ)

たとえ運命が間違っていようとも、屈服したりはしない。

全員 (ナ)

これが、私達の、存在する、意味だから。

◎※9Sだけ「私達」↓「僕達」と読んでください。

(終)